

## 平成 28 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	福岡県教育委員会
-------	----------

## I 概要

## 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
福岡県	高等学校	全日制	福岡県立 <sup>おんが</sup> 遠賀高等学校
福岡県	高等学校	定時制	福岡県立ひびき高等学校

## 2 研究課題

生徒指導や学習指導で多くの課題を抱える高等学校において、発達障がいの可能性のある生徒に対する効果的なキャリア教育や関係機関と連携した就労支援及び就労後の支援の在り方の研究を行う。

## 3 研究の概要

生徒指導面や学習指導面で課題を抱える高校に、発達障がいなど特別な支援が必要な生徒も多数在籍しているという実態を踏まえ、異なる特色のある2校をモデル校として、発達障がいのある生徒に対するキャリア教育や、関係機関と連携した就労支援等の在り方の研究を行う。

本研究では就職支援ネットワーク会議を開催し、発達障がいに理解のある企業を増やす具体的な方策について検討し、関係機関への働きかけを行う。

また、特別支援教育就職支援コーディネーターを配置して、モデル校との協働体制のもと、発達障がいのある生徒に対し、進路に対する意識を高めるキャリア教育や、障がいの程度に応じた就職先の開拓及び効果的な就職指導を行い就職決定を試みる。さらに、卒業生の就労に関するトラブル等を把握し、関係機関の協力も得ながら支援を行う。

この取組で得られた成果や課題を研修会等を通して普及させ、発達障がいのある生徒の適切な就労及び就労の継続による安定的な生活維持の実現を図る。

#### 4 研究の成果

平成28年度は両モデル校において大きく分けて次の4つの取組を行った。

第1は担任による指導だけでは対応が難しい生徒に対する就職面談、履歴書の作成指導及び面接練習である。就職面談については、遠賀高校で延べ170件、ひびき高校で延べ159件実施した。また面接練習については、遠賀高校で延べ121件、ひびき高校で延べ117件であった。

第2は発達障がいの可能性のある生徒に対する個別の支援である。遠賀高校では、昨年度から継続して支援をしている3年生の生徒に対して個別面談や関係機関との連携を行い、療育手帳の取得や卒業後の進路について支援を行った。また、2年生全員を対象に実施した職業レディネステストの結果を分析し、課題が認められる生徒に対して一般職業適性検査を実施した。ひびき高校では、配慮を必要とする生徒に対して職業レディネステストや一般職業適性検査を実施し、実態把握と社会性におけるスキルアップに努めた。また、各分掌や小委員会等で断片的に行われていた特別支援教育の取組を体系的に示した「就職支援図」を独自に作成し、連絡協議会を設置することにより、一貫性と継続性が構築できた。

第3は企業開拓である。遠賀高校では延べ79社、ひびき高校では延べ91社を訪問し、配慮を必要とする生徒の受け入れについて情報収集を行った。また、卒業生の就職先を訪問し、本人及び企業担当者からの聞き取りによって、関係強化と離職防止に努めた。

第4は職員に向けた研修会の実施である。発達障害者支援センターや若者サポートステーションとの連携により、就職支援に関する校内研修会を実施することで、本事業について理解を深めるとともに、職員との連携強化を図った。また遠賀高校では、1年生全員に社会性チェックのアンケートを実施し、その結果を学年職員と共有するとともに、2年次以降の進路に関する個人カルのベースとして活用していく予定である。

この1年間の本事業に関する様々な取組を通して、少しずつではあるが、発達障がいの診断がある生徒や可能性がある生徒に対する支援体制づくりが進み、教職員の就労支援への意識向上にも繋がっている。

#### 5 課題と今後の方策

今年度の取組を通して次の5点が課題となった。

- ①ソーシャルスキルの指導が可能な外部機関は高校生を対象としないことが分かった。
- ②就労支援に関する職員間の情報共有が不十分であった。
- ③支援不足から学校不適應となり、進路変更する生徒がいた。
- ④本人も学校も障がいに気付かないことにより、不登校などの2次障がいがあった。
- ⑤職員の特別支援教育に関する専門性を向上させる必要があった。

このような課題解決と就労支援の更なる充実に向けて次年度は、ソーシャルスキルの指導の校内における実践、障がい者雇用に関する企業開拓、就労後の定着支援、生徒支援や特別支援教育に関する職員研修会の企画、個別の教育支援計画・指導計画の活用の推進及び「就職支援図」（ひびき高校）の検証等について取組んでいきたい。

更に遠賀高校では、今年度の実践をもとに、「1年次の2学期には社会性チェックのアンケートを実施後、社会性に関する生徒向け講演会を実施。2年次には、就職希望者全員に1学期と2学期に1回ずつ就職面談を実施し、学年と協議して支援を必要とする生徒の絞り込み。3年次には絞り

込んだ生徒への個別の支援。」というサイクルを確実なものとしたい。また、生徒指導や学習指導の中にもソーシャルスキルの指導の観点を取り入れ、発達障がいの可能性のある生徒が、学校の教育活動全体を通して、コミュニケーション能力や人間関係形成能力の伸長を図れる体制づくりが必要である。

また、ひびき高校では、単位制・三部制という他校にはない学校の特色から、一定の学力はあるが、就職や進学等の進路指導の段階で支援を必要とする生徒が入学してくることが見込まれる。今後は特別支援教育に関する職員研修会を開催し、授業における掲示・板書の工夫やキャリアカウンセリングスキルの向上等、教員の指導力の向上を図ることにより、支援を要する生徒のみならず生徒全体の学力向上及び定着を目指していきたい。